

出前授業 いたしまーす

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 復原した竪穴住居

埋蔵文化財の活用と普及・啓発事業の一環として、京都市内の小・中学校を対象に「出前授業」を行なっています。遺跡から発掘された土器や石器を持って各学校に出向き、本物に触れながら歴史を体験してもらう授業です。現在、出前授業は、地域の歴史授業と体験授業の2つに大きく分かれています。

地域の歴史授業 各学校の周辺で行なわれた遺跡の発掘調査の成果をプリントや画像で紹介し、実

際にそこで発掘された土器や石器、瓦などを、手に触れながら地域の歴史を学ぶものです(写真2)。

京都は歴史の宝庫ですから、市内の学校でその周辺に遺跡のないところはありません。また、京都市内で過去30年にわたって調査を続けてきましたので、当研究所には資料がたっぷりあります。土器や瓦に至っては遺物整理箱(約25リットル)に約20万箱あり、縄文時代から江戸時代まで全ての時代のものが揃っています。例えば、

教科書に出てくる「和同開珎」をはじめとする「皇朝十二銭」も、12種類全てを本物をお見せすることができます。

体験授業 体験授業にも2つのスタイルがあり、その1つが考古学に関するものです。発掘された土器や石器を洗う遺物洗浄、割れた土器の破片を集めて元の形に接合する土器復原(写真3)、墨を使って土器や瓦の文様を写し取る拓本など、出土遺物の整理に挑戦してもらいます。また、教室から



写真2 歴史授業のひとつ



写真3 土器の接合



写真4 火起こし体験



写真5 あんぎん編みに挑戦

は飛び出してしまうますが、発掘調査現場に向いての発掘体験、学校周辺の古墳などの遺跡を見まわる遺跡見学もあります。いわば「考古学者になったつもり体験」です。

もう一つが「昔の暮らし体験」です。昔の人の暮らしがどのようなものであったかを、当時と同じ道具や材料を使って体験してみます。舞いざりなどを用いて火起こしをしたり（写真4）その火を使って実際にお米を炊いたりもします。物作りでは、縄文土器を作って本物と同じように撚り紐よひもを用いて文様をつけたり、勾玉まがたまや石器作り、古代の編み物「あんぎん編み」などにも挑戦します（写真5）。

最近ではたてあな竪穴住居作りにも挑戦しました。発掘調査で見つかった縄文時代の竪穴住居を参考にし、子どもたちと一緒に上屋も復原しました。現在、京都市立池田小学校の校庭にはその住居が残され、歴史教育の資料として活用されています（写真1）。

平成16年度から始めた出前授業は年間約10回程度行なっていますが、各学校からは概ね好評をいただいております。依頼は徐々に増加しています。平成20年度はすでに20回を越え、次年度の予約も入ってきています。子どもたちには体験授業が好評のようで、特に男子は火起こし、女子にはあんぎん編みが根強い人気です。なかには土器復原にのめり込み、休み時間を

つぶして取り組む子もみられました。将来私たちにとってはかけがえのない後継者になってくれるのかも知れません。一方、子どもたちそっちのけで夢中になって取り組む先生や保護者の方々もおられ、生徒とともに楽しいひと時となっています。

当研究所では、こうした取り組みを、材料費が必要なもの以外は、基本的に無料で行なっています。歴史授業や総合科目、クラブ活動の一環としてご利用ください。また、歴史や遺跡の事なら、一步踏み込んだ相談にもお答えしようと思っています。日程と時間が整えば、いつでも「出前」できる体制にしております。是非、教室でお会いしましょう。（吉崎 伸）